

# 岐阜大学の展望 ～新役員体制発足～

## 特集1 森学長が語る

### 岐阜大学長 森 秀樹

#### Profile

昭和18年生まれ。岐阜県出身。岐阜大学医学部卒業。  
昭和50年岐阜大学大学院医学研究科博士課程修了。  
昭和48年岐阜大学医学部助手、講師、助教授を経て、昭和62年教授。  
岐阜大学医学部長、岐阜大学理事を歴任後、平成20年4月岐阜大学学長に就任。  
医学博士。専門は腫瘍病理学。

「質の高い教育環境によって  
有意義な学生生活を実現し、  
さまざまな分野で地域に  
貢献できる人材を送り出す。」

今年4月、理事・監事・副学長に新しい「顔」を迎え、新役員体制でスタートした岐阜大学の展望について、第2期中期目標を礎とする森学長の「想い」をご紹介します。

(聞き手:八嶋 厚)



## 社会の期待に応える人材教育を

—— 第2期中期目標の第一に掲げる「人材養成」にはどのような想いが込められているのでしょうか。

第1期においては、中規模総合大学として、岐阜県・中部圏を意識しながら教育・研究を行う大学という概念でスタートしました。この第2期においては、大学として何を一番に掲げるかを考えたとき、やはり地域に貢献できる人材を育てることが大切だと思います。この人材養成には当然、自立性や国際性のほかいろいろな素養を身につけることが含まれています。社会の期待に応える人材教育こそが大学のなすべきことであると考え、明確なミッションを打ち出したわけです。さらに大学院では、「高度専門職業人」をキーワードとして、知識・技術・国際性を兼ね備えたプロとしての職業人を育てることが重要だと思っています。

これらを実現していくためには、質・量ともにさらに充実した教育を実施していかなければなりません。これについては、岡野幸雄理事(教学・附属学校担当)のもと具体的な取り組みを進めていて、自律型人材を育成するキャリア教育や語学のカリキュラムを充実させる体系をつくります。

社会から大学に対して学士力が要求されている昨今、社会がどういう人材を求めているのかを大学内の議論だけではなく、卒業生・産業界などと情報交流しながら質の

向上に努めています。入学から卒業までの教育方針(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)に基づき客観的に評価して、学生を社会へ送り出すことが大切と考えます。

## 社会が抱える問題解決のために

—— 中期目標の第二に掲げる「これまで培ってきた研究基盤の維持と環境科学・生命科学をはじめとする独創的、先進的研究の拠点形成を目指す」について、具体的にはどのように取り組んでいくのでしょうか。

岐阜大学は、環境科学に力を入れている点について社会から評価をいただいています。実際、21世紀COEプログラムに2件のプログラムが採択され、環境評価に取り組んできました。流域圏科学研究センターでは、森林・農耕地・草地・河川・都市などの各生態系を対象に、生態プロセスの解明と生態系分布・機能の評価を行っています。野生動物の生態と病態の観点から自然環境の評価を行っている連合獣医学研究科もあります。岐阜県は海がなく山林が非常に多い県です。この中で岐阜大学は、森林が機能するための大気中の炭酸ガスの循環や水環境あるいは野生動物の管理などの切り口から自然環境の健康を考え、環境問題に取り組んでいます。しかし、日本の森林は荒廃しつつあり、岐阜県の森林組合の方た

ちは日本の木材の需要低下を危惧しておられます。そこで、森林の意義を考え産業に生かすモデル『岐阜大学モデル』を提案することが、私の考えている環境科学の拠点形成の一つです。

岐阜薬科大学(岐阜市立)と連合した大学院連合創薬医療情報研究科を設置したことにより、薬学と医学とその他の生命科学が横断的な研究を展開できるようになりました。この大学院から、創薬と医療情報にかかわる領域で活躍できる人材を社会へ送り出しています。岐阜大学の医療情報学の研究は、病院の電子カルテシステムを含めて日本一だと自負しています。つまり、ジェネリックの副作用や医療の質など総合的に捉えてこなかった医療情報の問題に取り組むためにも、この連合大学院の設置は大変意義があります。このことを岐阜市民・岐阜県民の方々に知っていただくよう情報発信していかなければなりません。

## 教育の質の向上による奨学金制度

—— 第1期・第2期の中期目標ともに、地域に根ざした国立大学を掲げています。岐阜大学は今後、地域の課題に大学一丸となってどのように貢献していくのでしょうか。

やはり、産業・教育・経済・医療などさまざまな分野で地域に貢献できる人材を送り出すことに尽きると思います。そのために、私たちは常に教育の質の向上を考え、実行していかなければなりません。

## 生涯健康教育および奨学金制度

—— 学生に対する支援体制についてはどうでしょうか。

岐阜大学の保健管理センターは、学生の健康管理について大変きめ細やかに指導しています。新入生全員に



採血検査・歯科検診・心電図検査など質の高い健康診断を実施し、疾病の予備軍を調べる体制を整え、心身ともに生涯健康で社会で活躍する学生を送り出すことを責務として頑張っています。生涯を健康で過ごすためには、自分の健康を自己管理することが大切であり、大学生活をどのように過ごすかはその後の人生を大きく左右します。センターでは「生涯健康教育」をキーワードとして、自己管理する能力を養ってもらうよう指導しています。

経済的な支援については、昨年創設した岐阜大学基金によって今年度から独自の奨学金制度を開始しました。基金には多くの皆様からご寄附をいただき、大変ありがたいことです。これからも有効に使わせていただきます。

## 自らの多くの可能性を試せる場

—— 最後に、在学生や岐阜大学をめざす人たちへのメッセージをお願いします。

在学生の皆さんとは縁あって出会ったわけですから、この出会いを大切にしたいと思っています。私たち教職員は、皆さんに良い教育を提供し続けるよう最善を尽くします。皆さんは自信を持って勉強し、有意義な学生生活を送ってください。岐阜大学はすべての学部・大学院がひとつのキャンパスに集まっています。これを生かし、学生相互の交流の場をたくさん見つけてほしいと思います。

岐阜大学をめざしていらっしゃる皆さんには、本学をぜひ見学していただきたいというメッセージをおくります。入って良かったと思える大学です。オープンキャンパスや出前授業などを通して本学を知ってほしいと思いますし、私たちもいろいろな媒体を通して情報発信していきます。岐阜大学で自らの多くの可能性を試し、人生設計を考えてみてください。